

公民科(公共)

履修単位	2単位	学 年	1年
学科コース	商業科	区 分	必修
使用教科書	公共(実教出版)		
副教材等	公共 マイノート(実教出版)		

1. 科目を通じた学習内容と学習目標

この科目では、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする学習活動を行います。

この科目の目標は、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することです。

2. 授業を受けるにあたってのアドバイス

“公共”の授業では、中学校の“公民”を復習・継続しつつ、発展(広げる)・深化(掘り下げる)させていきます。そのための3つのアドバイスを送ります。

【①“語句の暗記”から“概念や理論の理解”】

…意味のわからない語句を覚えることが苦痛なら、その語句の意味や他の語句との関係性を調べたり質問したりしながら理解しましょう。タブレット等の便利な道具は家庭学習等で効果的に活用してください。調べた事柄を自分なりにノートにまとめる力も養いましょう。

【② ①で身につけた知識を“活用”する。】

…せっかく理解した知識です。正しい知識に基づいた“考察や判断”で自らの“意見”へと発展させ、レポートや話し合いで“表現”しましょう。その際、他の“意見”も参考にすることで、多面的で多角的に考える力が育っていきます。

【③ あと2年でこの国の“主権者”となる自覚を養う。】

…公共的な空間に生きる公民として、平和や各国の主権を尊重し、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養いましょう。テストの点数も大切ですが、この授業で学んだことや育んだ力を日常生活にどう活かせるかという視点が最も大切です。だからこそ、こちら側もテストの点数だけでなく、多様な観点でみなさんの力や姿勢を評価して行こうと考えています。

【☆スポーツを例にすれば、①は基礎練習で②は実戦練習。②のチャレンジで成功と失敗を体験することで、①へのモチベーションも上がります。ちなみにテストは練習試合。公式戦は今と未来の日常生活です。】

3. 科目を通じた評価の観点と評価方法

観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 単元テスト 小テスト レポート 等	定期考査 単元テスト 小テスト レポート 発表(プレゼンテーション) 等	振り返りシート 授業への取り組み 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまり(単元)ごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 年間を通じた学習計画

(より詳細な「学習目標・評価規準・評価基準・評価方法」等については、各小単元の最初で説明します。)

知識・技能＝【知技】 思考・判断・表現＝【思判表】 主体的に学習に取り組む態度＝【態度】

学期	単元の学習内容 ※部…大単元 ・ 【】 …中単元 ※章…小単元	単元の学習目標 (小単元のを掲載) ※第3部は大単元のみ	単元の評価規準 (小単元のを抜粋し例示) ※第3部は大単元のみ	主な評価の観点			備考
				知技	思判表	態度	
1 学期 (※ 4 月 ～ 6 月)	第1部 公共の扉	第1章 自らの体験などを振り返ること を通して、自らを成長させる人間 としての在り方生き方について理 解する。	例：第1章 自らの体験などを振り返ること を通して、自らを成長させる人間 としての在り方生き方について理 解している。	○			
	第1章 社会を作る私たち						
	第2章 人間としてよく生きる						
	第3章 他者とともに生きる	第2・3章 人間は、個人として相互に尊重 されるべき存在であるとともに、 対話を通して互いの様々な立場を 理解し高め合うことのできる社会 的な存在であること、伝統や文 化、先人の取組や知恵に触れたり することなどを通して、自らの価 値観を形成するとともに他者の価 値観を尊重することができるよ うになる存在であることについて理 解する。	例：第2章 社会に参画する自立した主体と は、孤立して生きるのではなく、 地域社会などの様々な集団の一員 として生き、他者との協働により 当事者として国家・社会などの公 共的な空間を作る存在であること について多面的・多角的に考察 し、表現させる。		○		
	第4章 民主社会の倫理						
第5章 民主国家における基本原 理		第4章 各人の意見や利害を公平・公正 に調整することなどを通して、人 間の尊厳と平等、協働の利益と社 会の安定性の確保を共に図ること が、公共的な空間を作る上で必要 であることについて理解する。	例：第3章 よりよい社会の実現を視野に、 多面的・多角的な考察や深い理 解を通して、公共的な空間におけ る人間としてのあり方生き方につ いての自覚を深めようとしている。			○	
		第5章 個人の尊重、民主主義、法の支 配など、公共的な空間における基 本的原理について理解する。	例：第4章 人間の尊厳と平等、個人の尊 重、自由・権利と責任・義務な ど、公共的な空間における基本的 原理について理解している。	○			
			例：第5章 公共的な空間における基本的原 理について、思考実験など概念的 な枠組みを用いて考察する活動 を通して、個人と社会との関わり において多面的・多角的に考察し 、表現している。		○		
2 学期 (※ 7 月 ～ 1 2 月)	第2部 よりよい社会の形成に参 加する私たち	【1】 第1章 法や規範の意義及び役割など に関わる現実社会の事柄や課題を 基に、憲法の下、適正な手続きや 公平・公正な調整などを通して、 権利や自由が保障、実現され、 社会の秩序が形成、維持されてい くことについて理解する。	例：【1】第1章 よりよい社会の実現を視野に、 多面的・多角的な考察や深い理 解を通して、法や規範の意義及び 役割、我が国の安全保障と防衛な どに関わる現実社会の事柄や課 題といった現代の諸課題を主体 的に解決しようとしている。			○	
	【1】現代の民主政治と 日本国憲法						
	第1章 日本国憲法の基本的性格						
	第2章 日本の政治機構と政治参 加	第2章 司法参加や、政治参加などに 関わる現実社会の事柄や課題を 基に、憲法の下、適正な手続き や公平・公正な調整、合意形成 などを通して、権利や自由が保 障、実現され、社会の秩序が形 成、維持されていくことについて 理解する。	例：【1】第2章 政治参加と公正な世論の形成、 地方自治などに関わる現実社会 の事柄や課題を基に、よりよい 社会は、憲法の下、個人が議論 に参加し、意見や利害の対立状 況を調整して合意を形成すること などを通して築かれるものである ことについて理解している。	○			
	【2】現代の経済社会と 国民生活						
第1章 現代の経済社会		【2】 第1・2章 経済分野に関わるの多様な事柄 や課題を基に、公正かつ自由な 経済活動を行うことを通して資 源の効率的な配分が図られるこ と、市場経済システムを機能させ たり国民福祉の向上に寄与したり する役割を政府などが担っている こと及びより活発な経済活動と 個人の尊重を共に成り立たせる ことが必要であることについて理 解させる。	例：【2】第1章 自立した主体として解決が求め られる具体的な主題を設定し、 合意形成や社会参画を視野に入 れながら、その主題の解決に向 けて事実を基に協働して考察し たり構想したりしたことを、論 拠をもって表現している。		○		
第2章 日本経済の特質と国民生 活							
			例：【2】第2章 よりよい社会の実現を視野に、 多面的・多角的な考察や深い理 解を通して、多様な契約及び消 費者の権利と責任、職業選択、 雇用と労働問題、少子高齢社会 における社会保障の充実・安定 化などに関わる現実社会の事柄 や課題といった現代の諸課題を 主体的に解決しようとしている。			○	

